

3章：友達と離れたくない？

わが家の中では一番活発で外交的な次男。性格はおっとりしていて、普段は余計なことはしゃべらないので、一見おとなしそうに見えるけど、学校や外では自称おしゃべり。そういう性格なので、小学校でも友達が多く、5年生位までは帰宅するとランドセルを玄関に放り投げて、自転車で友達と遊びに出かけて行ってしま毎日。自分の小学校時代を思い出しても、同じようなことをしていたので、似てしまったことに複雑な思いもあります。いや待て、じっくり思い出してみると、私の場合は家にも帰らず、学校から直接遊びに行ってしまう、時間の感覚もなくほぼ毎日、暗くなるまで遊んでしまっていたので、まだまだと思うと、子どもの成長を感じます。ちなみに、小学校5年生からは仲の良い友達に誘われて、ハンドボールを始めたので帰って直ぐに遊びに行く代わりに、一緒に始めた長女（当時小2）と隣の小学校へ行く

ようになりました。決して、心を入れ替えて帰って直ぐに勉強に励んでいた訳ではありません。ただ、前号（長男の受験体験記）にも記すように、受験に必要な能力として2番目に大切と思っている体力をつけるという点では凄く良かったと思います。

そんな次男なので、受験して小学校時代の友達と別れてしまうことが、中学受験という挑戦に歯止めをかけてしまうかもしれないと夫婦で感じたこともありました。

～抜粋版です～

全文読んでみたいと思われた方は完成版を小冊子として送付させていただきますので、メールにてお問合せください。